

# 患者さんの安全な入院生活のための転倒転落予防対策

## 安全な入院生活のための転倒・転落予防対策

入院は家庭と異なる環境で療養する事により、不眠や認知機能の変化、薬剤の影響、体力・筋力の低下などに影響します。そのような状況下で、自分自身は「できる」と思っても、身体が思うように動かず、ベッドからの転落、廊下やトイレでの転倒 が起きてしまうことがあります。転倒転落は、病状と相まって、骨折や生命に関する重大な影響に至ることがあります。

## 入院中の転倒・転落予防のために

### I. 入院時の職員の取り組み

1. 入院時は転倒転落分析シートを使用し、危険性が高いと判断された患者さんの場合、転倒転落予防の看護計画を立てケアを行っています。病状の変化・治療の後などは、再分析をします。
2. 転倒転落の危険性が高い患者さんには、病院全体で患者さんにどのような関わりを行うのが一目で分るピクトグラムを使用し、情報の共有を行っています。

### II. 患者さん、ご家族、職員で取り組むこと

#### 1. 服装と靴

- ・服は、サイズの合った動きやすいものを選びましょう。
- ・靴は、踵がしっかりと覆われた、マジックテープ式か紐で調節できる、靴タイプを選びましょう。踵が覆われた靴でも、踵を踏んで歩くことは危険です。スリッパ、サンダルはつま先が引っ掛かる、脱げやすい、滑りやすい等危険です。
- ・歩行はゆっくりと、急に方向を変えたりしないようにしましょう。バランスを崩し易くなるので危険です。

#### 2. 床頭台・ベッド・オーバーテーブル・点滴台

- ・ストッパーのあるものは、必ずストッパーを掛けるようにしましょう。
- ・キャスターの付いたものは、非常に不安定で危険です。体重を掛ける、杖代わりに使用しないなど注意しましょう。
- ・点滴台は背が高く、通路の段差で倒れる、カーテンに引っ掛かるなどのため、点滴をしながらの歩行は十分に注意しましょう。

#### 3. 睡眠剤、鎮痛剤、血圧に変化が起こる薬

- ・薬の種類によっては、足元に力が入らない、血圧が下がってふらつく等の場合があります。薬について不明な点は、医師、薬剤師、看護師に相談し、薬のことを理解して服用しましょう。

#### 4.補助具

- ・ベッドの高さ調整、杖、車椅子、歩行器などは、正しく使用しないと危険です。使用方法や注意点は、看護師・リハビリスタッフまでお尋ねください。

#### 5. 離床センサーなど

- ・転倒や転落の危険性が高いと判断された場合、患者さんのために離床センサー（患者さんの起き上がり、立ち上がりに反応する装置）などを使わせていただく場合があります。患者さんの安全のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

医療安全管理室